

早稲田大学 政治経済学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(古漢1問、現代文2問)
難易度	昨年より易化

〔大問別講評〕

(一・甲) 漢文。出典：曹操『短歌行』。

《本文字数：48字＝昨年より約40字減少。設問数：3＝昨年より1問減少。》

小問	難易度	コメント
問一	やや易	【文脈把握】傍線部までの内容から判断する。「苦」は「はなはだ」と読む。
問二	易	【書き下し文】傍線部の「以」を「もつて」と読むと知っていれば即答できる。
問三	やや易	【返り点】傍線部の「従」は「より」と読む返読文字。

(一・乙) 古文。出典：『豊明絵草子』。

《本文字数：約1700字＝昨年より約500字減少。設問数：9＝昨年より1問増加。》

問四・A	やや易	【文脈把握】傍線部の直前、直後とのつながりから判断する。
問四・C	やや易	【文脈把握】傍線部の願望の終助詞「もがな」に着目してロとハに絞り込めば容易に解ける。ハの「時間」の話は本文に全く書かれていない。
問四・F	易	【文脈把握】傍線部の基本古語「あからさまなる」に着目する。イは「密かに」がおかしい。
問五	標準	【文脈把握】設問文に「本文の内容によれば」とあるので、本文を丁寧に読み進めて人物関係を整理していく。
問六	やや易	【文脈把握】傍線部Dの1行前の「やまふの床に伏したり」や、直後の一文から判断すれば容易。
問七	やや易	【空欄補充】直後の「命消えなむとす」がヒント。「露」は、涙やはかなく消えやすいものを表現する際にも用いられる重要語。
問八	標準	【空欄補充】直前の「息子の一人が亡くなった」という内容から判断する。「愛別」は「悲しい別れ」の意。
問九	やや易	【文脈把握】傍線部Hの3・4行前から庵室を訪れたのが近衛少将だとわかる。庵室から帰っていくのも当然、近衛少将である。
問十	易	【文法問題】イ＝経、ロ＝たまへ、ニ＝「異ならむ」の「む」、ホ＝とも。探す範囲が狭いので容易に見つけられるだろう。
問十一	標準	【内容合致】ロは最終段落の内容に一致する。
問十二	易	【文学史】『とはずがたり』は鎌倉後期の女流日記で文学史の設問で頻出。基本問題。

(二) 随筆文。出典:和辻哲郎『茸狩り』。

《本文字数:約 2500 字=昨年より約 200 字増加。設問数:8=昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問十三	易	【文学史】落とせない基本知識である。
問十四	標準	【漢字書き取り】aの「満悦」は「満足し悦ぶ」意。これを書けたか。「もよおす」は易。
問十五	やや易	【整序問題】空欄2の直前5行に茸の順序が示されていることがヒントになる。
問十六	易	【漢字書き取り】空欄3の次行の内容から判断できる。
問十七	易	【空欄補充】空欄4の直前3行の言い換えを選択する。
問十八	易	【空欄補充】前後の文脈、及び、空欄6の9~10行後から容易に判断できる。
問十九	やや易	【傍線部理解】傍線7の直前の3行から判断できる。消去法でも容易である。
問二十	標準	【傍線部理解】「茸のもつ価値」を文章全体から考える。

(三) 評論文。「人間のもつ断片性」について。出典:市川浩の文章による。

《本文字数:約 2800 字=昨年より約 400 字減少。設問数:6=昨年と同じ。》

問二十一	やや難	【理由説明・記述】「未完結性」と対になるキーワードは「完成図」よりは「決定論的」のほうが適切である。また、空欄Bの2行後より、「断片」が「可能性をもたらす」ことも述べたい。
問二十二・B	やや易	【空欄補充】直前の「したがって」より、前の段落の結論が入る。
問二十二・C	やや難	【空欄補充】第2段落の1行目から判断できる。
問二十三	やや易	【諺・成句の知識】空欄Dの直後の説明にあてはまる選択肢を選ぶ。
問二十四	やや易	【傍線部説明】直前の2文を強めた内容であることから判断できる。
問二十五	標準	【傍線部説明】最後の2段落の内容から判断できる。
問二十六	やや易	【趣旨合致】ロは第3段落、ハは第9・10段落に反する。

〔総合コメント・今後の指針〕

昨年と比べて、古文の本文字数が大幅に減少して 08 年並みに戻った。漢文では漢詩が出題されたが、設問は簡単であった。大問三の評論文では昨年同様、難度の高めの記述問題が出題された。記述問題の出題が定着してきた感がある。この大問三の記述問題をのぞくと、ほとんどの設問が標準レベル以下なので、全体的に昨年と比べて大幅に易化したといえる。合格するにはかなりの高得点をとる必要があるだろう。

大問一について。漢文は、曹操の「短歌行」が出題された。設問が基本レベルのものばかりなので全問正解を狙いたい。

古文は『豊明絵草子』。読みやすい内容で、設問も難しくない。従来の政治経済学部の難度の高い古文で演習してきた受験生にとっては拍子抜けの感があったかもしれない。当然、満点に近い高得点を狙いたい。

大問二は、「茸狩り」についての随筆文。今年の「蓄音機」についての随筆文と同様、現代とほぼ同じ文体で書かれているので読みやすかったであろう。設問もほとんどが基本レベルのものばかりなので、多くの受験生が高得点をとったと思われる。問十四の a の「満悦」が書けたかでやや差がついたかもしれない。

大問三は、「人間のもつ断片性」についての評論文。本文自体はそれほど難しくないで、スムーズに読めた受験生が多かったであろう。ただ、問二十一の記述問題が昨年同様に難しかった。第一段落の語句をただつないだだけの答案とそうでない答案との間に差がついたと思われる。本学部を受験する場合は、現代文の記述問題の対策もしっかりとしておきたい。なお、最後の二段落で述べられている「他なるものとのかわり」は入試頻出のテーマの一つ。本校でも『◆早大現代文◆③④PART I』の〔五〕〔補二〕〔補三〕、『ハイレベル現代文／早大難関大現代文 PART I』の〔五〕〔補二〕〔補三〕、などで扱った。